

令和5年度 幼稚園自己評価

教育目標 一人一人の幼児が自分なりの力を発揮し、友達とかかわり合いながら生きる力をやしなう

今年度の重点目標	評価内容	実施状況	取組指標	達成判断基準	判定	来年度に向けて
幼児理解を深め教員の資質向上を図る	ねらいを意識した振り返りを行い、翌日の保育につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ねらいと幼児の姿を照らし合わせ、環境構成と教師の援助について振り返りと見直しを行い、幼児の遊びの充実につなげた。 担任、非常勤教諭、養護教諭が状況に応じて情報共有の場を設け、ねらいと幼児の姿を基に保育を振り返り、保育改善を行った。 	4：ねらいと幼児の姿を照らし合わせ、環境構成と教師の援助について振り返る 3：ねらいを十分に意識した保育を行う 2：幼児の姿を基にねらいを設定し、環境構成と教師の援助について考える 1：幼児の姿を基に、ねらいを設定する	4：ねらいを基に保育を振り返り、保育の見直しや改善を行い、幼児の遊びの充実につなげることができた 3：ねらいを基に保育を振り返り、保育の見直しや改善を行い、幼児の遊びに生かすことができた 2：ねらいを基に保育を振り返り、保育の見直しや改善について考えることができた 1：ねらいを基に保育の振り返りを行った	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教師間で幼児の育ちや学びの情報共有を行い、ねらいと幼児の姿を照らし合わせて振り返りを行い、幼児の成長と学びの充実につなげる。
	教員間の振り返りの方法を模索し、時間の有効活用を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ホワイトボード、カメラ（写真）、jumboboard等を用いてポイントを絞って振り返りを行った。対面で振り返りの時間がもてない時は、互いに記録したものを共有し、時間の有効活用につなげた。 保育中などに気付いたことを共有したり、掃除や教材準備等の時間に振り返りを行ったりと、時間の有効活用をした。 	4：情報を把握し共有するため、積極的に自分の考えを述べると共に時間短縮につながるツールを選択し活用する 3：振り返りのポイントを絞ると共に、積極的に話し合いに参加し、自分の考えや思いを述べる 2：何を振り返るべきか教師間で共通理解を図り、振り返る 1：振り返りの時間を設定し、振り返る	4：ツールを活用し、予定した時間内に有効な振り返りができた 3：ツールを活用し、予定した時間内で端的に振り返ることができた 2：ツールを活用した振り返りにより、時間短縮につなげた 1：今までと同様の振り返りを行った	A	<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて、活用しやすい振り返り方法を選択する。 令和6年度より全学年が単級となるため、他学年、園全体での共通理解が必要になる。そのための情報共有のシステム構築と時間の有効活用を目指す。
	記録を基に幼児一人一人の学びや育ちの過程を捉える	<ul style="list-style-type: none"> 月に一度、または学期に一度記録を見直し、幼児の学びや育ちの過程を振り返り、幼児理解につなげた。しかし、記録が不十分の日もあり、日々の記録から理解を深めるに至らない部分もあった。 	4：月に1度程度、記録を見直し振り返り、一人一人の幼児の学びや育ちの過程を記録する 3：学期に1度程度、記録を見直し、振り返り、一人一人の幼児の学びや育ちの過程を記録する 2：一人一人の幼児の姿を記録する 1：幼児一人一人の姿を記録する記録用紙を作成する	4：幼児一人一人の育ちや学びの理解が深まった 3：幼児一人一人の育ちや学びを理解することができた 2：幼児一人一人の学びや育ちを理解しようと行動し、理解につなげた 1：幼児一人一人の学びや育ちを理解しようと行動し、考えた	B	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の学びや育ちの過程をとらえるために、日々の記録の取り方を工夫する。引き続き、月または学期ごとに一人一人の幼児の育ちの過程を振り返り、幼児理解につなげる。
業務改善に向けたICTの活用	働き方改革 業務支援ソフト等とICT機器を活用し、事務作業効率の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 一人1台端末の整備により、職員会や研究会等の資料の共有、確認がスムーズになった。 保護者アンケートの収集、集約等の作業効率が向上した。 	4：タブレットを用いて職員会等の会議の準備時間の短縮を図ると共に、教職員間の情報共有を円滑に行う 3：ペーパーレス化を推進し、印刷や配布、アンケート集計時間の削減を図り、業務時間を有効に活用する 2：業務の改善に必要な業務支援ソフトやICT機器を選択する 1：現状の業務内容と課題点を把握する	4：事務作業効率が格段に上がった 3：事務作業効率が上がった 2：事務作業効率は変わらなかった 1：事務作業効率が下がった	A	<ul style="list-style-type: none"> さらなる作業効率向上をめざし、データの管理方法を見直す。 会議資料等の事前共有を進め、会議時間の短縮を目指す。
	保護者との連携 保育ICTサービスを導入し、保護者と円滑な情報共有を図る	<ul style="list-style-type: none"> 保育ICTサービス活用による情報共有が円滑に進んだ。また、ICT機器の活用に慣れない保護者には個別に対応し、啓発に努めた。 保護者のニーズに応じて、保育ICTサービス内の使用機能を増やし、情報共有の機会を増やした。 	4：おたより配信機能、連絡帳機能に加え、園の予定をいつでもどこでも確認できるよう、カレンダー機能を活用し、保護者の状況を把握し対応する 3：おたより配信機能に加え、欠席や遅刻等の連絡を簡易で迅速に行えるよう、連絡帳機能を活用し、保護者の状況を把握し対応する 2：おたより配信機能を活用し、保護者の状況を把握し対応する 1：保護者の保育ICTサービス利用を促進する	4：予想以上に保護者と円滑に情報共有を行うことができた 3：予想通り保護者との情報共有を十分に行うことができた 2：保護者と不足なく情報共有を行うことができた 1：保護者との情報共有がうまくいかなかった	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保護者のニーズを捉え、円滑な情報共有のための保育ICTサービスの利用方法を模索する。